

# のほぎ名人

## 塩ビ管 ダイレクト弁

### 配管設計施工要領・注意書

この度は大和バルブ製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
バルブを正しく配管・使用していただくために、配管設計・施工前に必ず当書をお読み下さい。

製品仕様	製品記号	: B10EGN (仕切弁)		
	適用流体	: 水道水、清水		
	最高許容圧力	: 1MPa		
	使用温度範囲	: 0~45℃		
適用管種	硬質ポリ塩化ビニル管	VP	(JIS K 6741)	
	水道用硬質ポリ塩化ビニル管	VP	(JIS K 6742)	
	水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	HIVP	(JIS K 6742)	

使用パイプーパイプは、変形・傷・割れのないHIVPまたはVPを使用してください  
面取りー変形や割れのないように切断後、パイプの端面のバリ取りのためC0.5程度の面取りをしてください。  
清掃ーバルブの受口部内面およびパイプの挿口部外面は、きれいな乾いたウエスで、油分・水分などを拭き取ってください。  
標線記入ーパイプ端面より挿入長さℓ(表1)を測り、パイプにマジックインキで標線を記入してください。

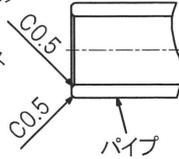
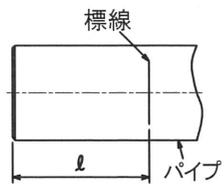


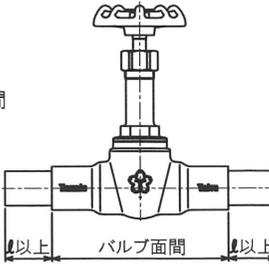
表1. パイプ挿入長さℓ(目安)

呼び径	ℓ mm
13A	26
20A	35
25A	40



接着  
接合

接着剤塗布ーバルブの受口部内面に専用の接着剤を用いて薄く均一に塗布してください。次にパイプの挿口部外面にも同様に専用の接着剤を塗布してください。標線よりはみ出さないようにしてください。  
接合ー接着剤塗布後、バルブ受口部にパイプ挿口部を速やかに手で差し込み、30秒以上挿入力を保持してください。パイプの挿入長さℓは目安です。はみ出した接着剤はウエスですぐ拭き取ってください。  
養生ー接合後は、接合部に力を加えることなく2時間以上の養生時間を置いてください。  
再使用ー一度配管したダイレクト弁を取り外して再使用する場合は、ダイレクト弁の面間からパイプの長さをℓ(表1)以上残して切断してください。パイプの長さがℓ未満の場合は、水漏れすることがあります。



裏面もお読みください。

### 注意

バルブの亀裂、膨潤、水漏れなどの原因となりますので、次の点にご注意ください。

- 製品仕様ー●ご使用・ご設計の際は、製品仕様書の範囲をご確認の上お守りください。
- 保管ー●0℃以下の低温又は40℃以上の高温、多湿、振動のある場所に保管しないでください。●ごみ、ほこりなどがバルブに入ったり、付着しないように保管してください。
- 運搬ー●運搬や取り扱いの際は、荷重や衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。
- 設置ー●耐久性の面から、直射日光・酷暑・凍結・塩害を避け極力屋内で使用するか、断熱・保温・保護などの処置を施してください。●バルブやパイプに荷重や衝撃が加わらないように設置ください。●バルブに直接ねじを切ったり、トーチランプなどで加熱したり、特別な加工はしないでください。
- 加工ー●H専用接着剤(耐衝撃性硬質塩化ビニル管用接着剤)をご使用ください。●接着剤の塗布については、接着剤メーカーの手順書により実施してください。

ソルベントクラック(SC)の対策について  
SC(Solvent Cracking)とは、接着剤などに含まれる有機溶剤が塩ビに作用して、微小な亀裂を起こすことをいいます。特に、低温時での配管、接着剤の塗り過ぎ、溶剤蒸気の滞留及び応力により起こりやすい傾向がありますので、配管時には以下のような対策をとってください。

項目	対策
接着剤の使用量	接着剤は管種に合った専用接着剤を用いて薄く均一に塗布する。接着後はみ出た接着剤は、必ずウエスで拭き取る。なお、接着剤の塗布量はメーカーにより異なりますので、接着剤メーカーの手順書にてご確認ください。
管の両端開放と通風・水洗	接着後、バルブは全開にし、接続したパイプ両端を開放し、溶剤蒸気を除去する。養生中に送風機などで、配管内を通風するとより効果があります。また、接着剤が硬化した後、水圧は掛けない状態で、満水にして水洗するとさらに効果があります。
応力の対策	温度差による熱応力が大きくなることを避けるため、伸縮対策を行う。配管固定はボルトの使用を極力避け、幅の広い固定バンドを用いる。

- 接合ー●バルブにパイプを挿入する際、ハンマーなどで叩くなど手以外の強い力で挿入することは避けてください。
- 通水ー●通水洗浄は接着接合後、30分程度養生してから行ってください。通水試験で加圧する場合は、接着接合後24時間経過してから加圧してください。
- 点検・保守ー●仕切弁のご使用前並びにご使用中はグランドバック金の点検を行い、漏れる前に適宜増締めをしてください。
- 弁開度ー●仕切弁は、全開又は全閉状態でご使用ください。半開などでの使用では、シートを損傷し、弁座漏れを起こすことがあります。
- ハンドルの操作ー●仕切弁の開閉操作は、必ず手作業で行い、過度な閉め込みや、ハンドル車の破損を防ぐためハンドル回し等の工具は使用しないで下さい。
- 水撃の防止ー●流体が液体の場合、水撃作用(ウォーターハンマー)を発生させないように、ゆっくりと開閉操作を行ってください。
- 解体ー●仕切弁を解体すると、解体部の損傷や適正なトルクで締め付け出来ないなどで、漏れが発生する恐れがあります。この場合は、メカ保証は出来ませんのでご注意ください。
- 増し締めー●バック金仕様の仕切弁はバック金の応力緩和による漏れの発生が考えられます。使用前にバック金押えナットの増し締めを実施してください。点検時にも増し締め・交換を実施してください。
- 凍結ー●寒冷地で使用される場合、配管内や製品内部に残った水の凍結により、製品が破損する恐れがあります。凍結が予測される環境下では、バルブを全開または半開にして残留水を除去するか、バルブ・配管の保温施工を行ってください。
- 使用禁止ー●塩化ビニル製のバルブやパイプが、ケトン、エーテル、フェノール類、炭化水素などの有機溶剤および、シンナー希釈剤を含む塗料やクレオソート(木材防腐剤)、殺虫剤、白あり駆除剤などに直接的又は間接的(蒸気ガス)に触れることを避けてください。●埋設には使用しないでください。埋設する場合は、埋設用ダイレクト弁B10EMGNをご使用ください。

TM2204D

- 首都圏 第1・2営業所 TEL (03)3492-6221
- 関西 第1・2営業所 TEL (06)6538-2371
- 東北営業所 TEL (022)748-5524
- 北関東支店 TEL (049)265-8445



- 札幌営業所 TEL (011)816-8280
- 横浜営業所 TEL (045)308-8091
- 名古屋営業所 TEL (052)938-6200
- 九州営業所 TEL (092)707-2056
- 広島営業所 TEL (082)569-5755
- 彦根工場 TEL (0749)28-0643